

# 会 議 録

会 議 名	平成 27 年度第 2 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	平成 27 年 10 月 27 日 (火) 午前 9 時～11 時 15 分
場 所	辰野町立辰野図書館 202 号室
出 席 者	7 名中 6 名
会 議 次 第	<p>進行 図書館長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会のことば</li> <li>2. 教育長あいさつ</li> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書館システム更新および蔵書点検結果報告</li> <li>2) 平成 27 年度図書館まつりについて</li> <li>3) 平成 28 年度予算策定に向けて</li> <li>4) 図書館規則・図書館条例の見直しについて</li> <li>5) 小野図書館あり方懇談会経過報告</li> <li>6) その他</li> </ol> </li> <li>4. 閉会のことば</li> </ol>
会 議 結 果	<p>開会前に、更新した図書館システムを、WebOPAC (インターネットを経由した蔵書検索機能) を中心にご覧いただく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 協議事項 (進行 会長) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書館システム更新および蔵書点検結果報告 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>2) 平成 27 年度図書館まつりについて 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>3) 平成 28 年度予算策定に向けて 事務局から説明し、質疑を経てご了承いただく。</li> <li>4) 図書館規則・図書館条例の見直しについて 事務局から説明し、次回協議会に原案をお示しすることをご了承いただく。</li> <li>5) 小野図書館あり方懇談会経過報告 事務局から、現在の経過について説明し、ご意見をいただく。</li> <li>6) その他 事業についての提案などをいただく。</li> </ol> </li> </ol>
協 議 内 容	
発 言 者	発言の内容
会 長	協議事項 1) 図書館システム更新について、先ほど実際に説明を受けながら見学したが、質問などお出しいただきたい。
A	広域化という言葉があったが、広域化に向けての課題は何か。
事 務 局	今回は 7 市町村によるサーバーの共同利用でシステム更新を行ったが、システムリース契約は 5 年で切れる。5 年後の平成 32 年に向けて、二つ課題がある。広域ネットワークを構築するかどうかという点、全市町村が共同利用に参加した場合、サーバーの設置場所が今までのように伊那市役所でいいのかどうかという点だ。
A	広域ネットワーク化には、資金的な裏付けも必要となる。それぞれの首長の考え方も大いに影響してくる。教育長を交えて理事者と話しをしていくことが大切ではないか。また、広域化しやすい事業・事例があるのか。

館長	<p>サーバーメンテナンスは伊那市にとっては当然負担となってくるだろうし、将来的に駒ヶ根市も共同利用に入るのであれば、今までのような伊那市主導の進め方には限界がある。首長の合意を形成しながら広域主導を進めていく必要がある。</p> <p>広域化は、全体でやる方が効率的な事業が優先される。広域化のメリットを明らかにすることが必要。</p>
教育長	現在の状況は、行政は効率を図ることが最優先されているという印象がある。
A	個々の図書館がそれぞれ自らの地元に責任を果たしていないと、広域ネットワークを結んでも機能しない。上伊那の図書館の実力を見た場合、現在のままでは、地域住民に有意義に働かないのではと懸念している。
会長	<p>次回システム更新に向けて、教育長を通して理事者に伝えながら、課題に対する答えを出して行ってほしい。</p> <p>協議事項1)のうち②蔵書点検結果報告について事務局から説明があった。 引き続き2)平成27年度図書館まつりについて、ご意見ご質問をお出しいただきたい。</p>
A	年を追うごとに充実してきており、図書館まつりへの来館者も増加していて、嬉しいことだと思う。
会長	<p>内容への提案などは、その他のところで時間をとって委員の皆さんのご意見をうかがいたい。</p> <p>3)平成28年度予算策定に向けて についていかがか。</p>
A	障害者サービスについてももう少し詳しく知りたい。
事務局	<p>H28.4から障害者差別解消法（「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」）が施行となる。国や自治体には必要かつ合理的な配慮を行うことが義務づけられている。図書館としては、視覚障害者むけの録音図書作成を始めたい。</p> <p>録音図書の媒体は、カセットテープからCDへ変遷してきたが、今後はパソコンで音声データ編集が可能なデジタイズ図書に移行していくと考えている。法律の施行を機会としてデジタイズ図書作成に取り組みたい。</p>
A	図書費についても、少しずつ上がってきている。現在は住民一人あたり270円程度だが、最低でも300円を超えるように予算がとれるといいと思う。
会長	<p>4)図書館規則・図書館条例の見直しについて、事務局から説明があった。</p> <p>次回協議会で見直し原案を示していただければということなので、検討は次回に願います。</p> <p>5)小野図書館あり方懇談会経過報告について説明をお願いしたい。</p>
館長	町の行財政改革の流れの中で、教育委員会の課題の一つとして、小野図書館の今後の運営がある。過去、小野区にも意向をお聞きしたが、両小野小学校の児童も利用することから、北小野地区の意向もお聞きしする必要があるということで、両小野振興会の呼びかけで、あり方懇談会が設置された。図書館からは、小野図書館職員と、オブザーバーとして町図書館職員が参加している。
会長	協議会の中でも、過去に小野図書館について協議しいたことがなかった。実際には行ったこともないというのが現状だ。現時点でどのような話し合いがもたれているのか。
事務局	建物を残したいという意見と、図書館単体としての運営は厳しいという意見が多い。本のある児童館という意見もあったが、図書館サイドからは、本を置くとしたら専門的に手を入れる人間がいないと機能しないということをお話した。また、半日勤務の非常勤職員が、2万冊の蔵書を管理することは物理的に不可能だということもお話した。
A	地元の方の思い入れを大切にしないといけないと思う。経済収支で考えると結論はすぐに出るが、図書館は町の顔でもある。小野に歴史のある図書館が存在することは、文化の町を標榜する辰野町として、一つの価値ではないだろうか。

E	<p>会議録を読んで、まさにこのとおりだと感じている。現状は、左側の部屋は小学生が集まり生き生きとした雰囲気がある。また、右側の部屋には、中学生が教科書を広げる風景が見られる。一般書はあまり動かず、大人の利用もほとんどない。つまり、子どものための図書館ではないかと認識している。</p> <p>小野図書館は、小学校の近くに建っていて立地が良い。今までも学校図書館と持ちつ持たれつでお互い運営してきた。子どもの居場所として残してあげたいと考えている。</p> <p>ただ、北小野地区センターにも塩尻市立図書館の分館があり、小野地域に二つの図書館存続は厳しいのではないかとこのも率直な思いだ。</p> <p>小野地区の人たちがどう思うかというのが大切ではないだろうか。イベント会場としても利用できるの、建物のあの雰囲気を生かすという方向がいい。</p>
事務局	<p>あり方懇談会は、現在全世帯対象のアンケートを集約している。その結果を受けて、年内に方向性が出されるので、その内容によって今後の対応を考えていきたい。</p>
会長	<p>それでは、6) その他で、図書館まつりについてご意見をお聞きしながら考えたい。</p>
A	<p>さまざまな催しが重複している。それぞれの主催者が日程調整をする時期にきているのではないか。ボランティア団体、公民館、各種サークルなどが一つのテーブルについて、同じ目的を持つものを一本化していくべきではないだろうか？図書館活動でいえば、読書や図書館ボランティアに関わる人たちをつないでほしいと思う。</p> <p>高齢者が元気で頑張っているの、若い人が町のことを知らなすぎるようにも感じている。ネットワークの広がりためには広域ビジョンが求められている。図書館まつりを一つの発信源として考えたらどうか。</p>
B	<p>地域のコミュニティが希薄になっていることを先日痛感した。中学校の同窓会費を集金に歩いたが、担当する地域のうちの60戸はほとんど知らない人ばかりだった。代が変わると全く分からなくなってしまう。最近新築して越してきた20戸は、旧来の住民とのコミュニケーションはない。地域での行事は多いが、ベースとなるコミュニティをつなぎとめていくシステムが機能しているとは言いがたい。隣組に直接一言かけるといことがなくなってきた。そのあたりは見直さないといけない。</p>
C	<p>若い人たちは活動していないのではなく、忙しいというのが現状だ。コミュニティは、少子高齢化の中で構築しにくくなってきている。若い人たちが参加できる工夫や声かけが大切ではないだろうか。</p>
D	<p>職場でも雑談の時間が取れない。忙しい日々の中で、違う年代層の職員と話す場が消えてしまっている。若い人と、以前のようなコミュニケーションはとりづらくなってきていると感じる。</p>
E	<p>顔を会わせないと何も始まらないということは感じている。地域の伝統行事を通して、常会の若い人たちとも年配の人たちともつながりができた。</p> <p>学校内では、保護者は地区内の子のことはお互いよく知っているが、違う地区の子については、同じ学年でも全く知らないという様子が普通にみられる。先生方とは、同じ学年の中で、お互いがいっぱい知り合える機会があるといいと話すことがある。</p>
F	<p>昨今、世代間の隔たりを感じることも多い。若い人は共働きが多いこともあるのだろうが、自ら相手を知らうとする気持ちが少ないのではと感じる。家族でコミュニティが完結ししかもその殻が硬いということ、地域の集まりの際に感じた。コミュニティ形成に、地区の伝統行事の意味の深さを今感じている。</p>
A	<p>ある程度の年齢になってから地域の発見があるのかもしれない。常会の集金の時に、そのお金は何に使うのかと聞かれ、地域のことを知らない世代があることを感じる。若い人たちは忙しさに追われている。</p>

	<p>二年前の講演会も大成功だったが、参加者と講師の縦糸のつながりしか持てず、参加者同士の横糸を繋ぎネットワーク化することができなかったことが残念だ。図書館まつりを通して横糸をつないでいくことが大切ではないか。</p> <p>分野別に催しをやる時代は終わり。各団体でつながりながら人づくりを考えていく時代が来ている。</p>
教 育 長	<p>なぜこういう社会になってしまったのだろうか。子どもたちにいい明日をと願って働いてきた結果が今の社会の有り様だが、決して今のような社会にしようと思ってやってきたわけではない。</p> <p>私の住む地域は、子どものころは屋号で呼び合う時代だった。そのころに比べ、今戸数も人口も増えている。地域の運動会には、若い人たちが慰労会も含めて参加する。「若い人たちは…」という目で見るとはならず、出る人が誘う、呼び込むことが求められている。それがないと、つながりが切れてしまう。</p> <p>忙しいからしょうがないと結論付けるのではなく、巻き込むことが大切だ。特に子育て中の若いお母さんたちはネットワークを持っているので、そういう人たちに声をかけて参加してもらうことが大切ではないだろうか。</p>
館 長	<p>続けてきた行事をなくすには体力が必要だし、様々な行事を束ねるのはさらに大変だと考える。</p> <p>自身の常会でいえば、40戸が90戸に増加しており、半分以上は常会外から入ってきた人たちになっている。小学生ぐらいの子ども連れの若い世代の移住者が多い。</p> <p>若い世代が集まっているから何かやろうということで、7～8年前に若い人たちに傘踊りを継承した。その後、若い世代の人たちがお祭りで踊るようになり、現在まで継続している。上の世代は若い世代の活躍を認め応援してくれている。そのことが地域のつながり、コミュニケーション形成になってきている。</p> <p>若い人たちの頑張りがありがたいと思うし、それがその子たちにもつながっていくのではと期待している。</p>
会 長	<p>図書館の運営を考えると人に直面する。ひとつひとつ先を見据えてやっていけば、やったことが先につながるのだと思う。協議会として、できることから積極的に参加して作り上げていきたい。また、次のステップとして、違う分野の人たちと同じテーブルについて次の共通項を探していけたらいいと思う。</p> <p>以上で協議を終了としたい。長時間の協議お疲れ様でした。</p>

#### ※デイジー図書（概略）

DAISY(DigitalAccessibleInformationSystem)という規格を用いたデジタル録音図書。

見出しから検索して読みたい部分を読んだり、読み飛ばしたり、一般の本のような読み方ができる。

#### ※障害者差別解消法

内閣府リーフレットを同封しました。